

花谷小学校 6年生 体験学習

『ふれあおう日本の心(伝統文化を知ろう)』

絵手紙・折り紙・着物着付け・銭太鼓

「絵手紙」の指導に参加して
美8-文 松本治司

素晴らしい日本の伝統文化をもう一度見直して、多様な文化に対する理解を深めていこうという運動が全国に広がっています。その日本文化は国内だけでなく世界でも理解され、広く浸透して、毎年日本で開催される日本文化の集いには多くの外国人が参加するようになったということです。教育界においても、伝統文化のカリキュラムを組んで指導に当たっている学校が増えています。そんな時須磨区の花谷小学校で日本文化講座があるので指導員としての参加するようにとの話があり、約2ヶ月の準備期間があつて11月19・20日の2日間授業を受け持った。絵を描くのが苦にはならなかったが、日本文化の指導という事をを考え

(前頁から続く)

ら代表的なものを抜粋し、オムニバス形式で纏めました。()内は筆者の補足語句。

【学習支援活動を終えて】

前記の児童たちの感想文から、児童たちの感性の豊かさ、問題点を的確に把握する力の強さが察せられ頼もしく思った。

そして、授業の目的である「戦争の悲惨さと平和の大切さ」ということを6年生として十分に会得してくれたと判断する。「今の子は・・・」とよく批判されるが決してそうではない。むしろ多彩な能力を秘めている。これらを大人が手を尽くして引き出し育てることが大切であると思う。

これからも、戦争体験談(6年社会科)、昔の暮らし(3年社会科)、伝承的むかし遊び(1年生活)等の教科・分野でシルバーパーを生かし小学校の学習を支援したい。

ると多少緊張した。授業当日、教室に入ると6年生24名が礼儀正しい挨拶で私を迎えてくれた。自己紹介のあと、絵手紙について準備していたプリントを配り、簡単な説明をしてから実習に入った。

見本として描いてきた絵手紙40枚を担当の先生が黒板に貼ってくれた。その時、生徒たちがワーという歓声を挙げてくれた。嬉しかったし準備してきた甲斐があったと思った。授業では生徒たちとの話も弾み楽しい授業となった。見ると、男性の顔を描いている女子生徒が二人いた。「何描いているの?」と質問すると、暫くしてから私にその絵葉書をくれた。「松本先生ありがとう・・・と描いてあった。私の宝物として大切にしたいと思う。

2日目は別クラスとなったが、ワイワイ言いながらも楽しい授業で、一人で3枚描いて貰ったが、皆さん上手なのは驚いた。



絵手紙の制作指導

すべての授業が終わり、最後の挨拶をしようとしたら、一人の女子生徒が立ち上がり、はっきりした口調で素晴らしい御礼の挨拶をしてくれた。感動した。そして胸が熱くなった。出来た生徒たちの絵は、暫くの間学校の掲示板に貼るようです。「絵手紙」には、感動があり涙がある。そして郷愁がある。

絵に添える言葉に暖かい心がある。子ども達にこんな日本の温かい伝統文化を理解してもらえば有難いと思う。

初参加の「折り紙」授業

生3-文 榎田みどり

学校側との事前打ち合わせの場で「児童の中には鶴も折れない子もいます。何でもよろしいです。」とのことで、私の頭の中では、先ず鶴を一つ、その他は季節にあったものをと決めました。そして教材として紙の歴史、折り紙の歴史の話を少し書き、その中に江戸時代の折図を入れておりましたところ、先生から「今、ちょうど江戸時代の勉強をしているところです。もう少しよく解るように大きくコピーして欲しい、」と要望が膨らんできました。

何よりも実物を見て頂く事を考え、今回は鶴バージョンを30種類以上作り、そして江戸時代のお雛様の再現作品を作って、教室に飾り見て頂きました。授業の制作作品は『クリスマスリース』リースの中にベルとリボン、サンタさんを配し、そして光の具合で様々な色の光を放つ紙を様々な形に切って貼り、きれいな作品が出来上がりました。

制作中は真剣に取り組みながらも「出来た!」「きれい!」と楽しそうな声が飛び交いました。展示を見てこれほしい、あれほしいこれを教えてとの声もかかりましたが、何分時間がありません。時間の経つのがとても早く感じられました。生徒さんたちは、とても素直でそれでいて、時には自分の思いを主張するとてもよい生徒さんでした。「あれもしたい、」「これもしたい」との声にこたえてあげられなかったのが心残りでも少し残念でした。このたびはとてもよい体験と勉強をさせていただきました。有難うございました。



折り紙の実習

(4)

情報ぎゃりー 第41号

(学習支援)



